

第2回札幌市地域防災計画（原子力災害対策編） 策定に係る有識者会議 結果概要

1 日時

平成24年9月18日（火） 15:00～17:00

2 場所

TKP札幌カンファレンスセンター カンファレンスルーム6B

札幌市中央区北3条西3丁目1-6 札幌小暮ビル6階

3 出席委員

太田座長、赤城委員、伊藤委員、岡田委員、岸委員、坂下委員、志賀委員、
近久委員（9名中8名出席）

4 会議内容

(1) 原子力防災対策の概略

(2) 計画原案

5 委員からの主な意見

- ・ 被害想定が曖昧なため、防災対策のイメージができない。また、そこが曖昧では、計画に基づく各防護措置の実施要領等の作成にも支障がでるのではないか。
- ・ 避難者受け入れを重要項目に掲げながら、拡散シミュレーションによる被害想定によらずに札幌市民全員の避難をも想定に含めるというのは、被害規模によっては避難者の受け入れができないことを意味しており、計画の中ではどのように整理されるのか。
- ・ 拡散シミュレーションを実施するための前提情報となる、原子力事故の規模の想定や放射性物質の放出量などの算出は、相当に難しい。
- ・ 実際は被害想定どおりにならない場合もあるので、国から札幌市に対して避難指示等が出された場合には具体的に何をするのか、を決めておくという考え方もある。
- ・ 被害想定は、福島市を参考にするだけでなく、原発からの距離が札幌市と類似する他の自治体のうち、最も大きな被害が出た自治体（例えば飯館村）

についても考慮するという方法もある。

- 各防災対策の実施に係る時間軸について、もう少し具体的な記載が必要だと思う。
- 専門用語が多いので、用語集を掲載すると、わかりやすいのではないか。
- 復旧対策の一部については、応急対策実施中からの速やかな実施が必要な項目があるので、記載方法について工夫してほしい。
- 市の地震対策計画には、法律相談などの市政外相談体制についての記載があるので、原子力防災計画にも記載してほしい。